

レジメン名 : mFOLFOXIRI+ペバシズマブ(5mg/kg) 2週毎(ポンプ)

疾患名 : 大腸がん

投与間隔(1コース期間) 14日間

総コース数 : PDになるまで

特記事項 : UGT1A1測定

投与順序	レジメン内容 (医薬品名)	投与量	単位 (mg/m <sup>2</sup> , V等)	投与方法 (手技)	投与時間 (速度等)	投与日(Day1等)	備考 (内服薬の用法等)
Rp. 1	生食100mL	1	瓶	点滴静注・メイン	15分	Day1	ルート確保用、アプレビタント125mg内服確認、イリノテカンの1~1.5時間前
	パロセトロン0.75mg	1	袋	点滴静注・メイン	15分	Day1	Day2,3はアプレビタント80mgを内服 Day2-5はデキサート注6.6mgまたはデキサメゾン錠8mgを投与してください。
2	デキサート6.6mg	1	瓶				
	デキサート1.65mg	2	本				
3	ペバシズマブ	5	mg/kg	点滴静注・メイン		Day1	初回90分、2回目60分、3回目以降30分まで短縮可
	生理食塩液 100mL	1	本				
4	イリノテカン	150	mg/m <sup>2</sup>	点滴静注・メイン	1時間	Day1	
	生理食塩液 250mL	1	袋				
5	オキサリプラチン	85	mg/m <sup>2</sup>	点滴静注・メイン	2時間	Day1	レボホリナートと同時に2時間で投与
	5%ブドウ糖 250mL	1	袋				
6	5%ブドウ糖 250mL	1	袋	点滴静注・側管	2時間	Day1	オキサリプラチンと同時に2時間で投与
	レボホリナート	200	mg/m <sup>2</sup>				
	フルオロウラシル	2400	mg/m <sup>2</sup>	インヒューサー			
7	生食 250mL	1	袋	ポンプ	46時間	Day1	46時間で投与 全量140mLとする
8	生食シリンジ20mL	1	本	点滴静注・メイン		Day3	持続のフルオロウラシル終了後使用、フラッシュ用

減量基準

減量規定 (副作用名等)	減量条件 (検査値等)	抗癌剤名	減量割合等 (減量後の割合又は投与量)
好中球減少	以下のいずれかの条件を満たす場合: 1) 2クール目以降の投与可能条件を満たさず投与を延期 2) 500/mm <sup>3</sup> 未満が7日以上持続 3) 感染症又は下痢を併発し、かつ、0.000/mm <sup>3</sup> 未満 4) 発熱性好中球減少症	イリノテカン、オキサリプラチン	イリノテカンを優先的に減量する。 ただし、イリノテカンの投与レベルがオキサリプラチンより低い場合は、本剤と同じレベルになるまでオキサリプラチンを減量する。
血小板減少	1) 2クール目以降の投与可能条件を満たさず投与を延期 2) 50,000/mm <sup>3</sup> 未満	イリノテカン、オキサリプラチン	オキサリプラチンを優先的に減量する。ただし、オキサリプラチンの投与レベルがイリノテカンより低い場合は、オキサリプラチンと同じレベルになるまでイリノテカンを減量する。
総ビリルビン上昇	2.0mg/dL 超3.0mg/dL 以下 3.0mg/dL 超	イリノテカン	120mg/m <sup>2</sup> に減量する。 90mg/m <sup>2</sup> に減量する。

参考文献

- ①大腸癌治療ガイドライン 医師用 2019年版
- ②制吐薬適正使用ガイドライン2015年10月(第2版)
- ③改訂第6版がん化学療法レジメンハンドブック